

都市再生整備計画

やまぶき うんどう こうえん しゅうへん ちく だい かい へんこう
山吹運動公園周辺地区(第3回変更)

いばらきけん ひたちのおおたし
茨城県 常陸太田市

令和6年12月

事業名	確認
都市構造再編集支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	☐
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	☐
まちなかウォークابل推進事業	☐

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	茨城県	市町村名	ひたちなかおたし 常陸太田市	地区名	やまがきうんどうこうえんしやうへんちく 山吹運動公園周辺地区	面積	86.5	ha
計画期間	令和4年度	～	令和9年度	交付期間	令和4年度	～	令和9年度	

目標

大目標:新総合体育館整備による公園の魅力向上と市街地活力の維持
目標1:新総合体育館を中心とした公園の賑わいと魅力の創出を図る
目標2:防災力向上による安全安心な生活機能の保持を図る
目標3:公共交通ネットワーク再構築による利便性の向上を図る

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針)を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。
本市は、茨城県北部に位置し、市北部は福島県と隣接している。平成16年12月の市町村合併により、金砂郷町、水府村及び里美村を編入合併し、市の総面積は371.99km²、南北約40km、東西約15kmの広がりを持ち、茨城県内で最も広大な市である。
また、人口減少や高齢化が進行しており、人口推移は平成12(2000)年の61,869人をピークに減少し、市街地においても人口及び人口密度の減少が進んでおり、高齢化率も38.7%(令和2年国勢調査)と高い状況にある。これらを背景として、高齢者や子育て世代にとつて、安心できる健康で快適な生活環境を実現すること、財政面や経済面において持続可能な都市経営を可能とすることが大きな課題であり、福祉や交通なども含めて都市全体の構造を見直し、『コンパクト・プラス・ネットワーク』の考えで進めていくことが重要とされている。
立地適正化計画では、「市街地への居住者集積による市街地活力の維持」と「商業施設をはじめとする都市機能の集積による拠点性の向上」の2つを目標掲げている。このうち都市機能の集約は、常陸太田市東部地区都市構造再編集集中支援事業を活用しているところであり、今回、山吹運動公園周辺地区を都市構造再編集集中支援事業を活用し居住誘導区域の維持を促すことで、居住集積による市街地活力の維持を図り、2つの事業の相乗効果による都市部の維持・存続を図るものである。

まちづくりの経緯及び現況

【経緯】
全国的に急激な人口減少と少子高齢化を背景として、財政面及び経済面において持続可能な都市運営を可能とすることが大きな課題となっている。当市においては、国が推進する立地適正化計画制度を活用し「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方でまちづくりを進めることとし、令和2年3月に立地適正化計画を策定した。立地適正化計画では、「集約と連携による支え合いで”暮らし続けたい”を叶える常陸太田市」を基本的理念に都市機能誘導区域や居住誘導区域への集約や周辺地域との連携を図ることとし、各種施策をおこなっていくとしている。
【現況】
「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方でまちづくりを進めるため、現在、都市機能を集約するため常陸太田市東部地区都市構造再編集集中支援事業を活用している。また、居住誘導区域内の山吹運動公園を新総合体育館を中心とした再整備を行い、より多くの市民が訪れ健康で活力あるまちづくりの推進などにより周辺地区の魅力度を向上させ、市街地への居住集積を推進することで、市街地活力の維持を図る。

課題

- ・市街地の人口及び人口密度の減少による都市のスポンジ化や、高齢化が進行している。
- ・公園周辺は浸水が想定される区域であるため、防災力の向上を図る必要がある。
- ・公園周辺は路線バス本数が少なく利便性が低く、車での移動依存度が高い。

将来ビジョン(中長期)

【第6次常陸太田市総合計画前期基本計画(平成27年3月策定)】
Ⅱ 夢を育み健やかに生きるひとづくり
スポーツ・レクリエーション活動への支援として、「誰もがいつでも、どこでも、いつまでも気軽に楽しくスポーツ・レクリエーションに親しめるよう環境整備を行う」としている。
Ⅲ 暮らしやすく楽しむことのできるまちづくり
良好で魅力ある市街地整備を位置づけており、玄関口としてのJR常陸太田駅前の機能の充実のため、待合所や観光案内所を含めた情報発信機能の強化を図るとしている。
【常陸太田市地域公共交通網形成計画(平成28年3月策定)】
持続可能な地域公共交通網の形成に関する基本的な方針として2つの方針を示している。
〈方針1〉ライフステージ、地域特性に応じた地域公共交通網の構築
〈方針2〉ライフステージに応じた移動支援の変容支援
【常陸太田市スポーツ推進計画(平成31年3月策定)】
①子どものスポーツ活動の推進②スポーツを通じた健康増進③スポーツ施設の整備と適切な維持管理(山吹運動公園の整備)
【常陸太田市都市計画マスタープラン(令和2年3月策定)】
山吹運動公園は、老朽化の進む箇所もみられるため、安全で快適に運動できる公園として、適切な維持管理を図るとともに、運動施設の整備等も必要に応じ検討し、利活用に努めるとしている。
【常陸太田市立地適正化計画(令和2年3月策定)】
本市の市街地において効率的かつ効果的に土地利用を図り、市民が快適な都市生活を実現できるよう、医療・福祉、商業や住居等が市街地を中心に集約的に立地するよう誘導し、さらに市民などが自家用車に過度に頼ることなく、公共交通などによって市街地や各種施設などを利用できる、集約と連携の都市づくりを目指すとしている。
【第2期常陸太田市まち・ひと・しごと総合戦略(令和2年7月策定)】
基本目標のひとつである「本市とのつながりを築き、本市への新しいひとの流れをつくる」ために新総合体育館整備事業を位置づけし、スポーツを通した新たなひとの流れを生み出すことで、賑わいの創出や交流人口の拡大を図ることとしている。
【常陸太田市地域防災計画】
「防災拠点として重要な公共施設等の機能強化と充実を図る。」としている。

都市構造再編集集中支援事業の計画 ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。	
都市機能配置の考え方 都市機能誘導区域は、安全・安心が確保できることに加えて交通利便性が高く、徒歩や自転車で容易に移動できることや、主要な公共公益施設が集積しているなど、今後も市民生活の利便性を維持できると見込まれる。山吹運動公園がある居住誘導区域は新総合体育館を整備することで、市民の日常のスポーツ利用による本市が掲げる「健康寿命の延伸」はもとより、スポーツやスポーツ以外のイベントなど多様な活用による「交流人口の拡大」のまちづくりを図ることで、公園及び周辺地区の魅力向上により、人口減少の抑制や市街地活力の維持につなげていく。 市街地付近とはJR常陸太田駅周辺、鯨ヶ丘、国道349号沿道付近の3カ所とする。	
都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等	

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
居住誘導区域人口密度	人/ha	・国勢調査を基に立地適正化計画で定める居住誘導区域内外の宅地配分に世帯人員数を当てはめて計算 ・人口密度＝居住誘導区域人口÷居住誘導区域面積	・平成27年現在33.9人/haの人口密度が ¹ 、令和22年には24.5人/haまで減少すると予測されている。誘導区域に様々な施策を行うことで27.1人/haの維持を図る。（平成22年現在の市街化区域の人口密度相当）	33.9人/ha 24.5人/ha（R22予測値）	H27	27.1人/ha	R22
運動公園利用者数	人／年	山吹運動公園における年間利用者数	山吹運動公園の魅力を高めることにより、利用者数の増加が期待される。	187,800	R元	244,000	R9
成人の週1回以上のスポーツ実施率	%	週1回以上、スポーツや運動（ウォーキングや体操等を含む）をしている成人市民の割合	誰もが気軽にスポーツに親しむことができる環境を整えることで、スポーツに取り組む機会が増え、健康寿命の延伸が期待される。	66.3	H30	75.0	R9
避難訓練の実施	回／年	公園周辺地区の避難訓練の実施回数	公園の防災機能を向上させることで、周辺住民の防災への意識が高まり避難訓練の実施につなげていく。	0	R3	1	R9
路線バス利用者数	人／年	路線バスの年間利用者数	公共交通（路線バス）のネットワーク再編による利便性を向上を図ることで、利用者数の増加につなげていく。	359,525	R2	420,000	R9

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
【新総合体育館を中心とした公園の賑わいと魅力の創出を図る】 集約と連携のまちづくりを推進するための課題解決の施策・誘導方針として「生活機能保全」「魅力向上」の実現 子どもから高齢者などあらゆる世代が公園を訪れ、快適に利用できる環境を構築し、賑わいを創出することで公園及び周辺地区の魅力向上につなげ、住みたいと思いたくなる気運の醸成につなげていく。 具体的には新総合体育館を整備し、誰もが気軽にスポーツに親しめる環境をつくることで、市民のスポーツ活動の促進・健康寿命の延伸による活力あるまちづくりを目指す。また、子育て支援施設「じょうづるはうす」の設備のリニューアルや、あらゆる子どもたちが一緒に遊べる環境、インクルシブな魅力ある公園を目指すことで、子育て世代の定住維持、促進を図る。 さらに、スポーツレクリエーション活動のみならず、様々なイベントを開催し、市民同士、市民と市外の人々の交流が盛んになることで交流人口の拡大を図り、賑わいと活気にあふれる体育館を目指す。		【基幹事業】 公園：山吹運動公園再整備事業 道路：市道0107号線道路整備事業 【提案事業】 事業活用調査：事業効果分析調査 地域創造支援事業：スポーツフェスティバル開催事業 まちづくり活動推進事業：公園内案内板設置事業
【防災力向上による安全安心な生活機能の保持を図る】 集約と連携のまちづくりを推進するための課題解決の施策・誘導方針として「安全な市街地確保」の実現 公園内に防災設備を整備することによる防災力の向上、夜間に徒歩での避難移動を想定した照明灯の設置など避難ルートを確保することで、市民の安全安心な生活を支える。		【基幹事業】 公園：山吹運動公園再整備事業 地域生活基盤施設（地域防災施設）：耐震性貯水槽、自家発電機等設置事業
【公共交通ネットワーク再構築による利便性の向上を図る】 集約と連携のまちづくりを推進するための課題解決の施策・誘導方針として「市街地の連携強化」「都市間の連携強化」の実現 公園周辺は路線バスの本数が少なく利便性が低い。東部土地区画整理事業に合わせ、JR常陸太田駅、東部土地区画、山吹運動公園など拠点施設を連結した持続可能な公共交通体系を再構築し、市街地への移動の利便性・回遊性を図ることで、居住誘導区域内の人口密度の維持とともに、地域経済の活性化につなげていく。 常陸太田駅は、本市の最も重要な交通結節点であることから、駅構内に情報案内板を設置するなど情報発信することで、市外県外来客者が公共交通を利用しやすい環境をつくり、公共交通の機能を強化して利用促進を図る。 また、公園東側源氏川堤防沿いに歩道を整備することで、市街地から公園まで徒歩による移動の誘導を図る。		【基幹事業】 道路：市道0107号線道路整備事業 地域生活基盤施設（情報板）：常陸太田駅情報案内板設置事業 【提案事業】 まちづくり活動推進事業（社会実験）：公共交通再編実証実験
その他 ○常陸太田市新総合体育館整備基本計画（令和3年3月策定） 市民アンケートで約80％が新総合体育館が「必要」「どちらかといえば必要」と回答。 【基本コンセプト】 誰もが 気軽にスポーツを楽しみ 夢を育み 賑わいが生まれるスポーツアリーナ ○常陸太田市公共交通計画（令和4年度策定） 常陸太田市公共交通利用増進計画（令和4年度策定）		

様式(1)-④-1

(金額の単位は百万円)

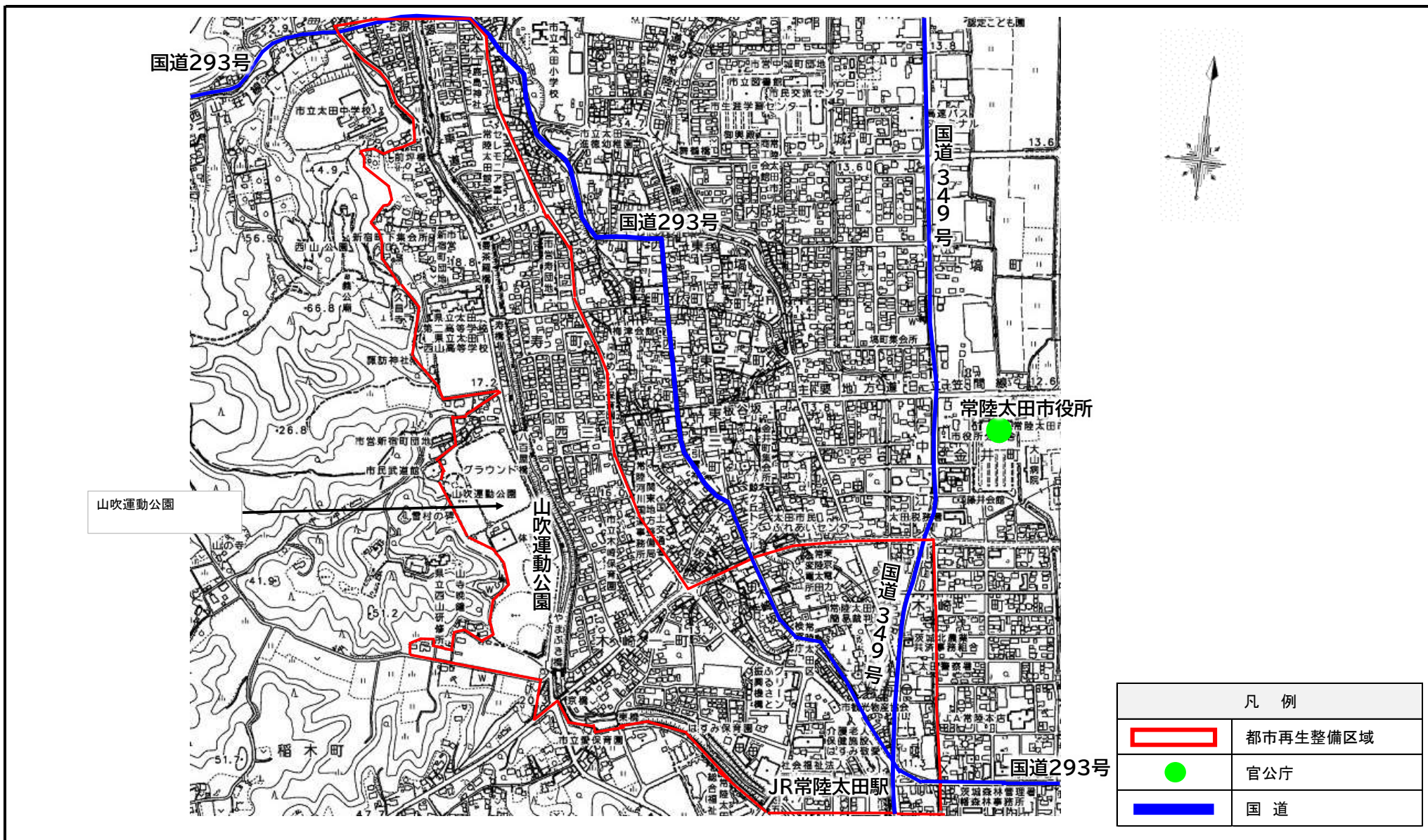
統合したB/Cを記入してください

...B

合計(A+B+C)	8,853
-----------	-------

00

面積	86.5	ha	区域	新宿町の一部, 稲木町の一部
----	------	----	----	----------------



山吹運動公園周辺地区(茨城県常陸太田市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	目標 新総合体育館整備による公園の魅力向上と市街地活力の維持	代表的な指標	居住誘導区域人口密度 (人/ha)	33.9 (R2予測24.5)	(H27年度)	→	27.1	(R22年度)
	目標1:新総合体育館を中心とした公園の賑わいと魅力の創出を図る		運動公園利用者数 (人/年)	187,800	(R1年度)	→	244,000	(R8年度)
	目標2:防災力向上による安全安心な生活機能の保持を図る		路線バスの年間利用者数 (人/年)	359,525	(R2年度)	→	420,000	(R8年度)
	目標3:公共交通ネットワーク再構築による利便性の向上を図る							

